地域の企業・団体との連携

取り組み事例 酪農学園大学とエコフィードを共同開発

2021年7月、学校法人酪農学園とのあいだでSDGs に係る包括連携協定を結びました。そこから生まれたのが、茶かすから生まれたエコフィードです。

エコフィードとは食品廃棄物を利用して製造される家畜用飼料のことで、環境や経済性のエコと、飼料を意味するフィードからなる造語です。酪農学園大学は、循環型社会の形成に欠かせない飼料としてこの研究開発に取り組み、当社と共同研究を進めました。

飼育を担当したのは、北海道の酪農・畜産の未来を担う学生たちです。一般に肥育期間中には濃厚飼料が使われますが、これを100%エコフィードとしたことも話題を呼びました。エコフィードの利用を推進することで、廃棄物量の削減、国内飼料の向上、飼料価格の安定、畜産農家の経営安定につながるほか、地産地消や製造過程の公表、安心安全な食肉生産という観点からも持続可能な社会の構築に寄与します。

イオン北海道（株）の店舗にて数量限定販売

取り組み事例 さまざまな企業・団体と連携した清掃活動

おたるドリームビーチ清掃の様子

厚別川沿い清掃の様子

毎年、北海道の公園や自然を舞台にした大規模な清掃活動を、グループ社員がボランティアで展開しています。2023年6月には、生活協同組合コープさっぽろが主催する「Hokkaido 海のクリーンアップ大作戦」の中で、「おたるドリームビーチ」のクリーン化をコープさっぽろと共同開催しました。この活動は、コープさっぽろ主催で2020年から定期的に実施されているもので、海洋と海浜の汚染が深刻視される中で、当社が「できることから始める、そして北海道の海をみんなでキレイにしていく」という精神に賛同し、共同開催したものです。

また10月には、札幌市清田区にある厚別川沿いの清掃を実施し、当社グループ社員のほか、清田区役所やイオン北海道（株）、札幌国際大学のボランティアメンバーも加わり、清掃を行いました。

取り組み事例 望来浜海岸漂着物調査

2023年10月、石狩市と北海道博物館との共催で、石狩市厚田区にある望来浜で海岸漂着物の調査を行いました。対馬暖流の影響によって、北海道では珍しい南方系の生物などが漂着物として打ち上げられる浜で、多様な自然の成り立ちやその変化が見えるユニークな場所です。データは年を追って積み重ねられ、学術研究に活かされます。

当日は当社社員22名のほか、北海道博物館より5名、石狩市より2名が参加。漂着する自然物・人工物について北海道博物館の学芸員からのレクチャーを受けたあとで、縦30m×横50mの範囲で調査をスタート。海洋ゴミや貝殻などを拾い、区画ごとに種類や量の記録を行います。自然物では貝類が10種程度確認されたほか、メノウ（鉱物）も確認され、プラスチックは個数・重量ともに80%以上が陸からのものでした。漂着ゴミの組成や量を認識し、改めてプラスチック製品のリサイクルやリサイクル推進活動の重要さを実感しました。

望来浜海岸漂着物調査の様子

行政・地方自治体との取り組み

全道の各自治体との協働によって、まちづくりや暮らしの安心・安全のために、きめ細かな貢献を目指しています。

取り組み事例 北海道との包括連携協定

北海道の未来こそが、当社の未来です。当社と北海道は、2009年に「環境保全に関するパートナーシップ協定」を締結して「北海道e-水プロジェクト」を行ってきましたが、2014年には取り組みをさらに深く広げていくために、右記の6項目で北海道との包括連携協定を新たに結び、地域との絆を深める活動を展開しています。社会の営みの基盤に深く関わりながら、地域のために何ができるかを考え、私たちは生活の現場から北海道の豊かな未来を見据えています。

北海道との包括連携協定

1. 安全・安心な地域づくり
2. 観光振興
3. 食や健康
4. 環境保全・環境教育
5. 固有文化・歴史の伝承
6. その他双方が必要と認める事項

取り組み事例 主要都市とのまちづくりに関する協定

市民、企業、行政が手を携え、幅広い分野におけるまちづくりに取り組んでいくことを柱として、2009年1月に札幌市と「さっぽろまちづくりパートナー協定」を締結しました。また、市内10区ともそれぞれ協定を結び、まちづくりへの協力を行っています。

旭川市、函館市、釧路市、帯広市、北広島市ともそれぞれまちづくりへの協力協定が結ばれ、2014年には広尾町と「サンタクロースの夢を育むまちづくりパートナー協定」を結びました。2019年には札幌市と周辺11市町村で発足した「さっぽろ連携中枢都市圏」と協定を結び、圏域の魅力と活力のより一層の向上を目指しています。

取り組み事例 さっぽろウェルネスパートナー協定を締結

本協定は、札幌市が目指す『ウェルネス』の実現に向け、さまざまな企業・団体が連携を強化し、相互に有する資源・リソースを共有しながら取り組みを展開していくもので、当社ではさまざまなパートナー企業・団体・組織と協力し、当社と札幌市が保有するプラットフォームを活用した活動を展開しています。

取り組み事例 北海道警察との連携

全道すべての警察署と協定を結び、各地の電光掲示板付き自動販売機で、防犯や事件情報を配信する「防犯ほっとインフォメーション」を運用しています。また、地域の子どもたちが描いた飲酒運転根絶、オレオレ詐欺や児童虐待防止などのポスターを自動販売機のポスター掲示部分を活用して掲出しています。自動販売機は、防犯の分野の社会インフラとしても機能しています。

防犯の取り組み〈北海道内〉
全64警察署

取り組み事例 子どもの安全を見守る運動

「子どもの安全を見守る運動」のステッカー

子どもたちを守ろうと当社が北海道へ政策提案することで始まり、道が2006年度赤レンガチャレンジ事業として推進した「民間企業等とのタイアップ事業」第1号となり、運動はその後、「安全・安心どさんこ運動」へ発展しました。当社は各事業所と車両（約900台）にポスターやステッカーを掲示しながら、社員一人ひとりが業務を通して、子どもたちの日々の安全を見守っています。

取り組み事例 北海道開発局との取り組み

道路緊急ダイヤル「#9910」のステッカー

北海道開発局との包括協定に基づき、各自治体とも連携して、道の駅に「おしらせ道ねっと」という電光掲示板付き災害対応型自動販売機を設置し、道路情報などを発信するほか、災害時には「フリーベンド」機能が活用できます。

また同局との情報共有と「道路緊急ダイヤル（#9910）」の啓発協定によって、トラックや営業車両に啓発ステッカーを貼り、道路の異常などを発見した際は迅速に通報を行っています。